

『道』が育む 歴史文化で彩られた

1 観光振興ビジョンの推進

市では、令和4年6月に第2次亀山市観光振興ビジョンを策定し、「すばらしいまちづくり」こそが結果として多くの来訪者を惹きつけ地域観光につながるという『まちづくり観光』を推進しています。

地域資源（ヒト・モノ・コト）に磨きをかけることで、交流が生まれ、来訪者の満足度と地域に暮らす人々の地域への愛着と誇りが高まります。また、地域資源（ヒト・モノ・コト）について情報発信することで本市の知名度向上につながり、その結果、新たな地域資源の磨き上げや交流が育まれる「まちづくり観光の好循環」を創り上げていくことを目標としています。

2 観光振興のための方策（観光プロモーション）とコンセプトの設定

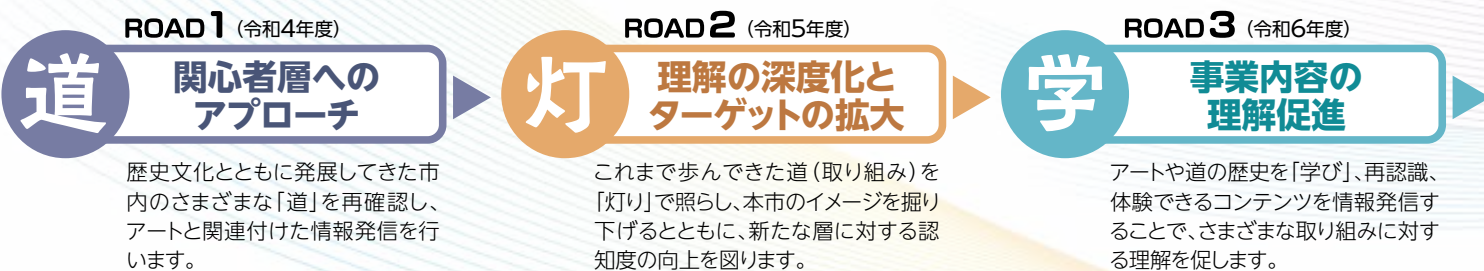
「まちづくり観光」を推進するための基本戦略の一つとして「情報発信のクオリティアップ」を掲げており、その中で本市の特徴である歴史、文化、芸術など観光コンテンツを効率的かつ効果的に情報発信するために、市独自のコンセプトを戦略的かつ意図的に創造することを具体的な取り組みの方向としています。

そこで、このまちに暮らす人々の営みの中で培われ、時代・世代を越えて継承され、新たな創造につながる「心動かすもの」を『アート』と捉え、効果的な情報発信を目指して、観光プロモーションのコンセプトを設定しました。

3 観光プロモーションの展開スケジュール

観光プロモーション推進事業では、コンセプトに沿って地域ブランディングに取り組み、市内にあるさまざまな地域資源を関連付け、令和4年度から4年間にわたって、4つのキーワード「道」「灯」「学」「歩」を切り口に情報発信することとしました。

令和4年度は、本市が古代には日本書紀にも登場する「鈴鹿関（すずかのせき）」と呼ばれた関所が置かれ、江戸時代には東海道五十三次の宿場町として、また、近代では「鉄道のまち」として古くから交通の要衝として栄えてきた背景を持つことから、「道」を切り口として観光プロモーションの取り組みを進めました。



『ディスカバー・ジャパン』編集長 高橋俊宏さんと櫻井市長による特別対談 伝えたいこと ～観光プロモーションの展開にあたって～

市長 ディスカバー・ジャパン誌は、日本人が忘れかけている豊かな文化の魅力を時流に即した切り口で発信する日本の入門書で私も愛読していますが、とてもクオリティが高いですね。

高橋編集長 光栄に思います。地域の文化やアートを再発見することをコンセプトに発刊から今年で15年目になります。

今回、三重県観光連盟とタイアップして観光プロモーションを展開するというので、我々ディスカバー・ジャパンも力になれると考えています。

市長 我々も一緒に仕事ができることは、本当に心強いと思っています。

高橋編集長 今日は亀山まで電車で来ましたが、駅前にあれだけ大規模の図書館があるのも珍しいですね。

亀山駅は市の玄関口でもあり、図書館で情報を得てから旅をすることもでき、理想的だと思います。市民の方や電車を待つ来訪者

など、にぎわいの場としても期待できます。駅を降りたら、中村晋也氏の銅像が迎えてくれましたが、これも亀山市を象徴するものになりそうですね。

市長 銅像のモデルとなっているヤマトタケルと妻オトタチバナヒメの2人にまつわる物語は他の都市でも伝えられていますが、オトタチバナヒメの生誕の地で、ヤマトタケルが終焉を迎えるという、まさに運命的な出来事は、ここ亀山でしか語ることができません。この2人のロマン伝説にちなんで“縁結び”あるいは“絆を深める”聖地として、早くも多くの恋人や夫婦が訪れています。

高橋編集長 新たなスポットが生まれる一方で、歴史ある関宿のように、住民主体となってまちなみ保存に取り組んできた地域も珍しいですし、自然が生み出す亀山7座のように、整備された登山道も魅力的だと思います。こういった魅力的な観光資源が数多くある中で、どのように発信していこうとお考えですか？

アートの街 亀山

問合先 商工観光課観光・地域ブランドグループ (☎84-5074)



「観光三重」内特設サイト

ROAD 4 (令和7年度)

歩 魅力に触れる 機会の提供

亀山の道を「歩き」、未知に触れる機会を提供し、次なるステップへ踏み出します。

令和4年度の取り組み紹介

◎三重県観光連盟が運営するウェブサイト「観光三重」と協働した情報発信

都道府県公式観光サイトアクセスランキング全国2位である「観光三重」と協働し、「道」をテーマに特設WEBサイトや観光PRポスターを作成し、多面的な情報発信を行いました。

◎雑誌「ディスカバー・ジャパン」(2023年4月号)における魅力紹介

インフルエンサーとして女優・モデルの菊池亜希子さんが、「道」の一つである東海道関宿を実際に訪れ、街道を歩き、肌で感じた想いを亀山の魅力として伝えています。

時代を越えて つながる「道」



古代

古代三関 国史跡「鈴鹿関跡」



近世

東海道三宿(亀山宿、関宿、坂下宿)



現代

高速道路など広域交通網の結節点



未来

鉄道のまちから リニアのまちへ

市長 新たなもの、歴史あるもの、豊かな自然など一見バラバラに見える観光資源も、元とは言えば交通の要衝であるこの地で創造と継承を繰り返して育まれてきたものです。これらを「アートが生まれる街、亀山」としてストーリー性を持たせ、人の心を惹きつけるような、アート

になるようなまちを目指し、それを4年間の観光プロモーションとして展開していきたいと考えています。また、この変化の激しい時代に、子どもたちへと世代を越えて亀山の文化を伝え、さらには進化させるような気運が生まれることを望んでいます。



「ディスカバー・ジャパン」(2023年4月号)